



新教出版社 出版通信

2017年
12月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 Fax: 03-3260-6198
ホームページ: <http://www.shinkyo-pb.com>

第二コリント書

8—9章

佐竹明 著

(広島大学・フェリス女学院大学名誉教授)

【現代新約注解全書】

佐竹明氏の第二コリント注解、刊行開始！

◆A5判・上製・390頁・本体7000円

11月15日発売

世界最高水準の第二コリント書注解の刊行がいよいよ始まる。

第一回配本の8—9章は、パウロが献金問題を詳しく論じた重要な部分。

次回配本は10—13章で来年刊行予定。第三回は1—7章で数年後となる見通し。

●佐竹明氏の既刊書

ピリピ人への手紙

◆A5判・上製・302頁・本体4800円

ガラテア人への手紙

◆A5判・上製・617頁・本体6600円

ヨハネの黙示録 上巻 序説

◆A5判・上製・260頁・本体4800円

ヨハネの黙示録 中巻 1—11章

◆A5判・上製・475頁・本体8500円

ヨハネの黙示録 下巻 12—22章

◆A5判・上製・484頁・本体8500円

使徒パウロ 伝道にかけた生涯 新版

◆四六判・並製・273頁・本体2500円

新約聖書の諸問題 《オンデマンドブック》

◆四六判・並製・334頁・本体3900円

いのちの水

トム・ハーパー作／中村吉基訳／望月麻生絵

11月13日発売

誰でも自由に飲めたのに、なぜ？

昔々、いのちの水の湧き出る泉があった。しかし泉に感謝するために建てたはずの記念碑は次第に大げさな礼拝堂となり、ついには泉がどこにあるのか分からなくなってしまうた……。

聖なるものを囲い込もうとする宗教の閉鎖性を痛烈に批判した寓話を、達意の訳文と美しい消しゴム版画によって贈る。

◆ B6判・56頁・本体1500円

いのちの水

トム・ハーパー 作
中村吉基 訳・望月麻生 絵



作者 トム・ハーパー (Tom Harper)
1929～2017年。カナダの神学者、聖公会司祭。トロント大学で新約聖書学などを講じた。またマスメディアでも活躍した。キリスト教に対する革新的な解釈で話題を呼んだ。

● 11月の新刊

現代に生きる教会

対話・共生・平和

森野善右衛門著

11月22日発売

(もりの・ぜんえもん氏は日本基督教団隠退教師)

実践神学者としてまた牧師として、現代に生きる教会のあり方を模索し続けてきた著者の、教会の本質論から実践的な問題提起にわたる近年の論考を集成。 ◆ B6判・本体1500円

現代に生きる教会

対話・共生・平和
森野善右衛門



福音館書店

一色哲著

南島キリスト教史入門 (仮題)

琉球王国の最大版図とほぼ重なる「南島」のキリスト教は、日本のキリスト教に従属しない独自の深さと広がりを持つ。なぜ南島には多くの教会が建てられ、現在でも多くの人の信仰を集めているのか。その歴史を丹念な調査と重層的な視点から追究した労作。 ◆四六変判・予価23000円

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊一訳

イエスの譬え話の再発見 (仮題)

譬え話をイエスが語った一番元の形に立ち返らせ、イエス自身が譬え話で何を伝えたかったのかを明らかにすべくパレスチナの環境の中で解釈しようと努めた金字塔的名著『イエスの譬え話』。同書をより分かりやすく英語圏で紹介したいとの著者の願いから生まれた英語版を底本とする。 ◆四六判・予価35000円

磯部隆著

ローマ帝国のたそがれとアウグスティヌス

帝国末期の時代状況と神学的巨人の思想的生涯とを並行してたどり、両者の相互関係を歴史小説風にまとめあげた異色作。著者は名古屋大学法学部で政治思想を講じ、現在は同大学名誉教授。

◆四六判・予価30000円

● 10月に出た本と雑誌

戦後70年の神学と教会

新教コイノーニア35

新教出版社編集部編



『福音と世界』の連続特集を一冊にまとめた。戦後の日本のキリスト教界が歩んできた道のりを部門別に振り返り、今後の課題を検討する。全17論考。 ◆A5判・本体1500円

ギレアド

マリリン・ロビンソン著／宇野元訳



2005年ピューリッツァー賞および全米批評家賞受賞小説。自らの死期を意識した老牧師が幼い息子に手紙を綴る。南北戦争以来三代にわたる牧師父子の信仰の屈曲。忍び寄る時代の変化と隣人たちの人生。 ◆四六判・本体3000円

福音と世界

11月号 特集 ユダヤ教のいま

◆税込635円

寄稿者：早尾貴紀、赤尾光春、山森みか、手島勲矢、編集部
／マルゴット・ケースマン、山本巍、中村うさぎ／高井へ
ラー由紀、森達也、芦名定道、内田樹、辻学ほか

●6年前、パレスチナを訪れたことがあります。日本とパレスチナの両YMC Aの共同企画により、イスラエルによる土地収奪への抵抗の意味を込めて現地のオリーブ農場の収穫をともにこなうツアーに参加したのです。ベツレヘム近郊を拠点に各地の農場をめぐる10日あまりの旅でしたが、その合間には、イエスが生まれた場所に建つとされる生誕教会などの史跡を回ることもできました。ところが、それから数カ月後、ある事件が報じられました。生誕教会は複数の教派で共同管理されているのですが、年末の大掃除のさいに脚立の置き場所で採め、ギリシャ正教とアルメニア教会の司祭ら約100名がホウキで乱闘になったというのです。言葉にするとまぬけな事件ですが、こんなことではキリスト教はパレスチナ和平の足を引っ張るばかりなのではと暗い気持ちになりました。

●さて、今月の新刊『いのちの水』は、すべての人にひとしく水を分けあたえるはずの泉が、一部の力ある者によってじょじょに占有されていくさまを寓話的に描いたおとな向けの絵本です。私は一読して思わず上の事件を彷彿とさせられました。ほかにさまざまな読み方ができる一冊となっています。消しゴム版画による美しい挿絵をひとりで楽しむのはもちろん、この物語からどんな印象を受けるのか、秋の夜長に誰かと話し合ってみるのもいいかもしれません。(堀)

●10月の新刊『ギレアド』は小社にとって不慣れた文芸作品ということもあり、おそろおそろ出しました。著者はアメリカでこそ高い評価を得ています。日本ではほとんど無名の作家。作品そのものも、事件らしい事件の起こらない極めて地味な内容です。果たして読者の反応やいかに……と危ぶんでいたところ、最初の愛読者カードが届きました。

「この本が翻訳されるのを10数年待っていました！ ようやくというかついに日本の方々はこの本を紹介できる感激にわくわくしています。魂の奥深くを揺さぶられる本です。この本を初めて読んだ時、父からの手紙を受け取った思いで涙しました。感謝！」

こんな感想を読むと、出して良かったとしみじみ思うものです。(小林)

福音と世界

2017年
12

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8460円

特集..ポピュリズム・デモクラシー・キリスト教

ピープルのいないところにポピュリズムあり?

教会の課題としての「ポピュリズム」

イギリスにおけるポピュリズムと宗教

近代プロテスタント社会原理の「終わりの始まり」?

酒井隆史
ソントーク・ミラ
原田健一朗
吉松 純
水島治郎

■尹東柱生誕一〇〇年を覚えて

詩人尹東柱と私の「祈り」.....梁 賢恵
尹東柱生誕一〇〇年によせて.....香山洋人

【連載より】

◆福音の地下水脈2.....中村うさぎ

◆はじめての台湾キリスト教史9.....高井ヘラー由紀

◆みことば散歩12.....望月麻生

◆現代神学の冒険15.....芦名定道

◆新約釈義 第一テーマ書22.....辻 学

◆レヴィナスの時間論33.....内田 樹

◆ことばの履歴書45.....佐藤 優

◆詩篇の思想と信仰150.....月本昭男